

Title	表紙 ; Contents
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2009
Jtitle	Newsletter Vol.7, (2009. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000007--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

Newsletter

2009 March No. 7



Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility

学術研究の社会的使命

文学研究科委員長 中川純男



星を観察していて井戸に落ちたタレスが、陽気なトラキア娘に、「天上のことは熱心に知ろうとするのに、足下のことは気がつかない」とからかわれたという話がある。プラトンの『テアイテトス』に紹介されている。タレスを最初の哲学者と呼ぶのはプラトンの弟子アリストテレスであるが、プラトンもこの逸話を哲学者一般に向けられた非難であるといっているから、タレスに哲学者の典型を見ていることになる。ここでいう哲学者とは知を愛しているひとという意味である。プラトンの念頭にあったのは、この逸話を書かれるより何年も前、まだ若かったときにその生と死をつぶさに経験したソクラテスの姿であろう。真実を求めて止まないソクラテスは、そのことゆえにアテナイで死を命じられた。

一見、趣の異なる話がアリストテレスの『政治学』に伝えられている。タレスの貧しさを見て、哲学は役に立たないと笑った友人に、天文学の知識からオリーブの豊作を予見したタレスはミレトス周辺の搾油器を冬のうちに安く契約し使用权を独占した。秋にひとびとが搾油器をもとめて殺到したとき思いのままの対価で貸しつけ巨額の富を手に入れたというのである。哲学者にとって、財をなすことはその気になれば容易である。ただそのようなことに熱心でないだけだ、とアリストテレスは結んでいる。アリストテレスのいう哲学とはものごとの原因を知ることである。哲学という訳語より学問のほうがよいかもしれない。ものごとの原因を探求する学問が役に立たないはずはない、学問するひとの無力は見かけにすぎないとアリストテレスは考えたのであろう。

それぞれの時代や地域で、解決を求められている問題がある。解決のためにさまざまな知識が動員される。そのとき必要な知識を体系的に提供するのも大学の社会的使命のひとつである。しかし、問題を見いだすのは人間である。何を問題と感じるのか、問題の解決をどこに求めるのか。健全な感性と理性を養うのもまた学問である。一見、実利から遠いと見える基礎研究がそれにもかかわらず社会や歴史を根底から変えるほどのおおきな力をもつのは、問題を感じ見いだす力を養うからにはほかならない。「論理と感性の先端的教育研究拠点」における研究蓄積が、年長のタレスに導かれ、やがて多くの若いタレスたちがここから巣立ってゆくことを確信し楽しみにしている。

Contents

学術研究の社会的使命	1
慶應義塾大学グローバル COE 3 拠点シンポジウム	2
国際シンポジウム 「医療人類学の最前線 I・II」報告	3
信濃町キャンパスリサーチパーク内 マーモセット飼育実験施設の紹介	4
活動報告	5
事務局だより	7
研究員紹介	8